

平成31年・令和元年（2019年）の摩周の火山活動

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報の状況、2019年の発表履歴

2019年中変更なし

噴火予報（活火山であることに留意）

○2019年の活動概況

・火口や噴気の状況（図1～3）

5月27日から31日にかけて現地調査を、7月29日に上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）を実施しました。現地調査ではカムイヌプリ（摩周岳）の北側火口壁の地表面温度分布に異常は認められませんでした。また7月29日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）で北側の火口列や南側の火口列に噴気は認められず、赤外熱映像装置による観測で地熱域は認められませんでした。

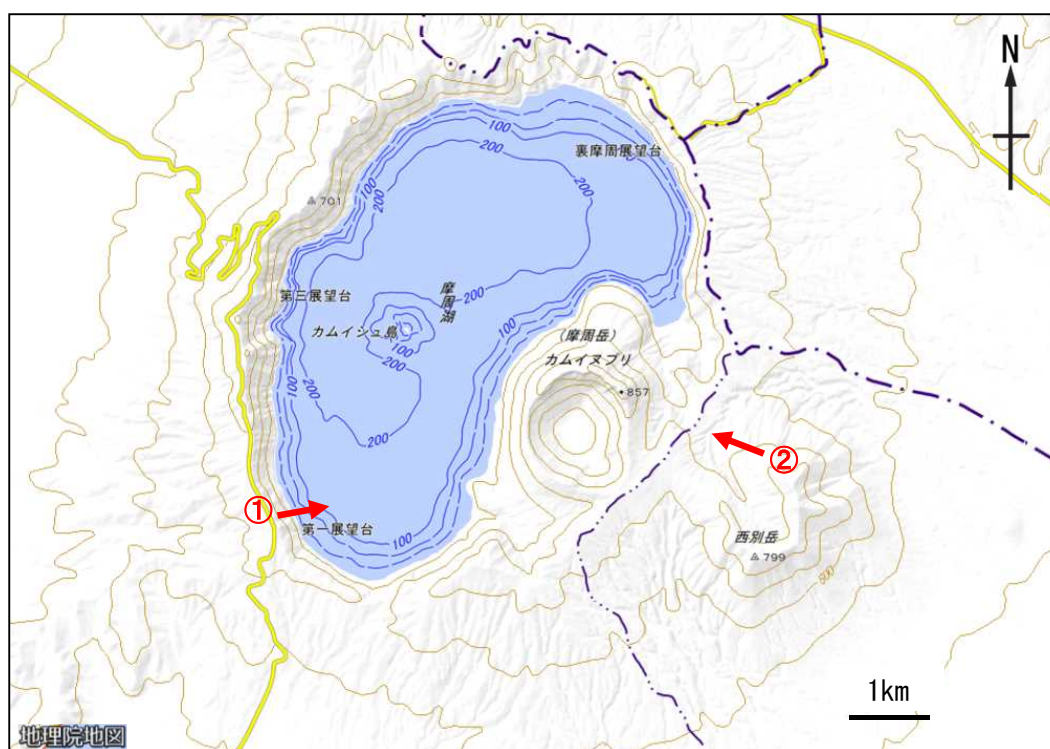


図1 摩周 周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

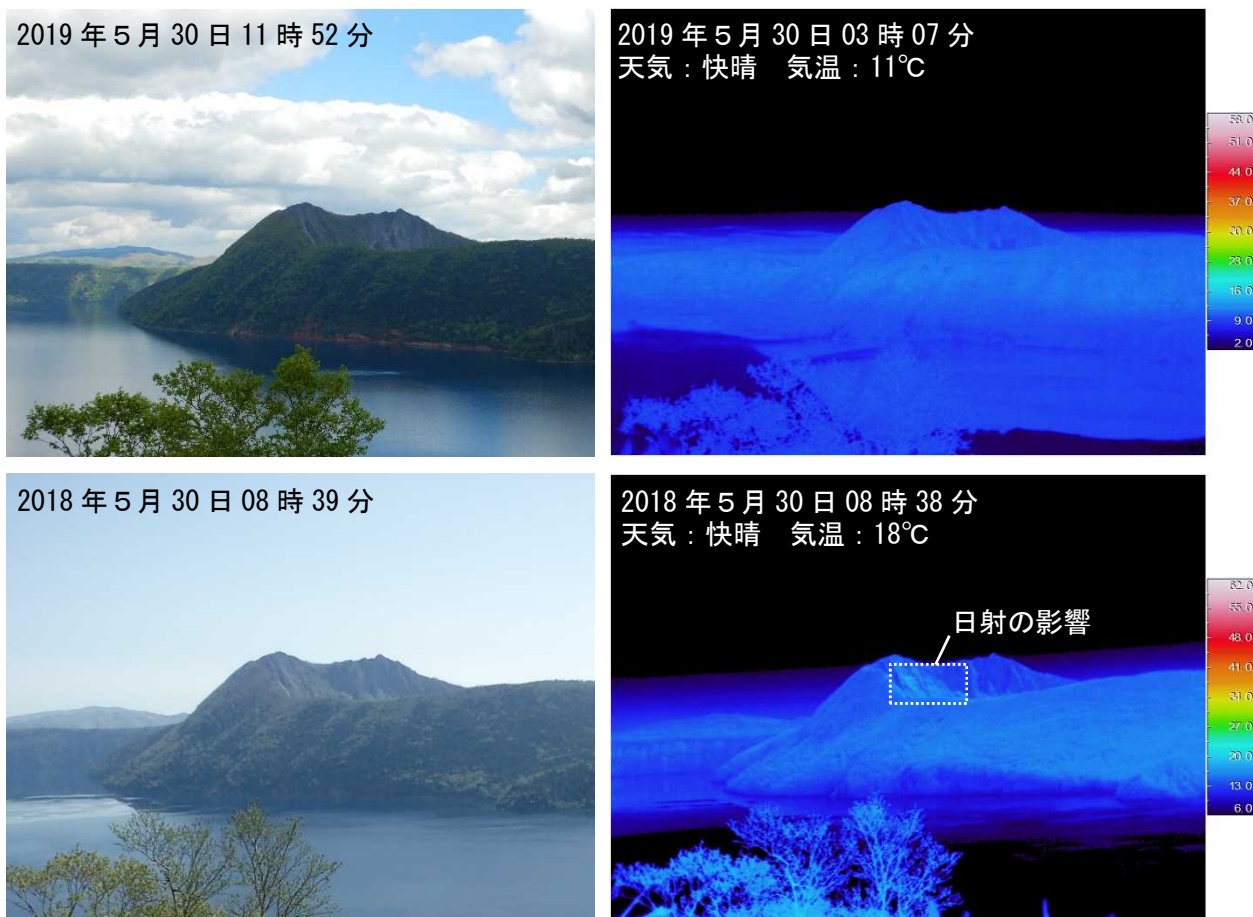


図2 摩周 赤外熱映像装置によるカムイヌプリの地表面温度分布 南西側(図1の①)から撮影
 ・カムイヌプリの北側火口壁では、前回の観測(2018年5月30日)と比べて地表面温度分布に変化は認められませんでした。
 ・図中の点線部は日射の影響によるものと考えられます。



図3 摩周 カムイヌプリの状況 南東側(図1の②)からカムイヌプリの北側火口壁を撮影
 ・噴気は認められず、前回の観測(2017年7月)と比べて特段の変化はありませんでした。